

No.	ご質問・ご意見	質問者	回答
1	P4 第2章1(1) ・図表1-1-1 年度毎の総人口数の記載があるとよいのではないか。 ・図表1-1-1 本文にある2023年度の推計人口もグラフに追加するとよいのではないか。	公益社団法人北海道看護協会 田中委員	・総人口数については、スペースの都合上、掲載する年度を絞った上で掲載いたしました。 ・推計人口については、年代別の内訳が国勢調査実施年のみのデータとなるため、2023年度はデータがなく、本文のみの記載とさせていただきます。
2	P13-23 第2章2(1)-(3) ・全体的に記述のフォントサイズは大きく、読みやすいが、表の字が小さく読みにくいと感じる。可能であれば、もう少しでも大きく表示できるのが望ましい。また、全体的にぼやけて見えるので、解像度も上げられるとより良いのではないか。	公益社団法人北海道看護協会 田中委員	ご意見のとおり素案を修正いたしました。
3	P36 第4章1基本方針1健康要素2:身体活動・運動 ・下欄の囲み部分(黒ぼつ4つめ)「ロコモティブシンドロームを知っている人を増やします」という記述について、「ロコモティブシンドロームの理解を促進します」、「…について正しい知識を普及します」などがわかりやすいのではと思うが、囲み部分の他の表示との整合性を見ると、記載のままでよいのか。	公益社団法人北海道看護協会 田中委員	他の分野にも同様の指標があり、整合性の観点からこのままの表現としたいと考えております。
4	P43 第4章1基本方針1健康要素3:休養 ・下欄の囲み部分(黒ぼつ2つめ)「悩みを相談する人がいない人を減らします」は、文章としてわかりにくく感じる。例えば、「悩みの相談先がない人を減らします」など、もう少し平易な表現としてはどうか。	公益社団法人北海道看護協会 田中委員	「悩みの相談相手がない人を減らします」に修正いたしました。
5	P49 健康要素5:喫煙 ・20歳以上の喫煙率が、令和18年度でもまだ目標値が2ケタの数値なのに愕然とする。一層の努力で、せめて一桁の目標値にできないか。 また、タバコは嗜好品の側面(文化的側面)も併せ持つことを考えると、男性と女性の喫煙率の目標値に約2.5倍もの差をつけるのは不公平(不平等)ではないか。目標値は、男性に甘過ぎる(女性に厳し過ぎる)と考える。令和18年度になっても、まだこれだけの差をよしとする根拠を教えてください。	市民公募委員 白井委員	目標値は第二次計画にて国の目標値設定に係る減少率を参考とし、禁煙希望者が禁煙した場合の割合を減じて設定したもので、第二次計画の評価において目標を達成していないことから、引き続き同値で設定しております。 現状値において、男性と女性の喫煙率が異なることから、目標値も異なっております。 ご意見いただいております通り、喫煙率を減少させることは重要であると考えており、第三次計画においても引き続き取組を進めていく必要があると考えております。

No.	ご質問・ご意見	質問者	回答
6	<p>P71 ライフステージごとの健康行動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の会議時の出ている意見かと思うが、 主食・主菜・副菜をそろえて摂取する→学童期から 毎日朝食を食べる→学童期から 無理なダイエットをしない→学童期と思春期 意識して肉や野菜を食べる→学童期後半から前年代 よく噛んで食べる→嚥下による詰まりを気にしているのであれば高齢者だが、通常は全年代 悩み事は誰かに相談する→学童期も 適量飲酒を心がける→20代以降 たばこの害について学ぶ→思春期も 歯間ブラシやデンタルフロス→学童期からでも良いのではないか ・この他に新たな項目として、薬の正しい知識を入れてはどうか。 薬の正しい知識だけであれば学童期以降すべての年代となる。 その中でも現在問題になっているオーバードーズについては特に学童期から思春期に学ぶことが必要と考える。 オーバードーズでは体の発育途中の中高生が大量に服用することにより、肝臓や腎臓障害の危険性がある事、大昔はシンナー、現在は大麻がその後の覚せい剤使用等に関係している事からゲートドラッグと呼ばれていたが、直近では風邪薬のオーバードーズから大麻や覚せい剤に結び付いていっている。学生への違法薬物についての講演は学校薬剤師会や消防署等が対応しているがまだまだ不十分と感じている。また、自己責任だが個人輸入での薬品購入が簡単にできる時代になっている。やせ薬と称した中に覚せい剤原料が含まれている事例も発生している。 	<p>一般社団法人札幌 薬剤師会 角田委員</p>	<p>ご意見を踏まえ修正いたしました。 また、「薬の正しい知識を得る」について、追加いたしました。</p>
7	<p>身体活動・運動の健康要素について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康づくりの方針として、スポーツ庁(2023年8月)でも運動・スポーツに関し、ライフパフォーマンスの推進を挙げ、国民のスポーツ実施率の向上に焦点を当てた施策から効果を高める質的な取り組みにシフトし、目的を持った運動・スポーツを推進する方向性を示している。 今後の健康づくりの方針として「運動の実施率を上げる」、「運動できる環境整備」に加え、個人が自発的に目的に合わせて自身に適した運動・スポーツを実施できるように計画(札幌市民のニーズを把握し、様々な目的に対応した幅広い選択肢と環境の提供など)を推進していくことが大事かと思う。 	<p>北翔大学生涯ス ポーツ学部スポーツ 教育学科 花井委員</p>	<p>市民が自身に適した運動を行うことで、運動習慣を定着することができるよう、スポーツ部局とも連携の上取組を進めていきたいと考えております。</p>